

市民アンケート調査結果

①調査概要

【調査の目的】

市民の日常生活の移動手段や公共交通に関する意見等を把握するため、無作為抽出による市民アンケート調査を実施し、市民の移動ニーズや公共交通に対する改善要望等を整理する。

【調査対象】

住民基本台帳から無作為で20歳以上の市民2,000人を抽出

【調査方法】

郵送による配布、郵送回収またはWEB回答（無記名）

【調査期間】

令和7年11月10日（月）～11月25日（火）

【配布・回収数(回収率)】

配布2,000通、回収1,044通（回収率52.2%） ★回収率はR5年から6ポイント増加

②アンケート回収状況

【地区別回答者割合】

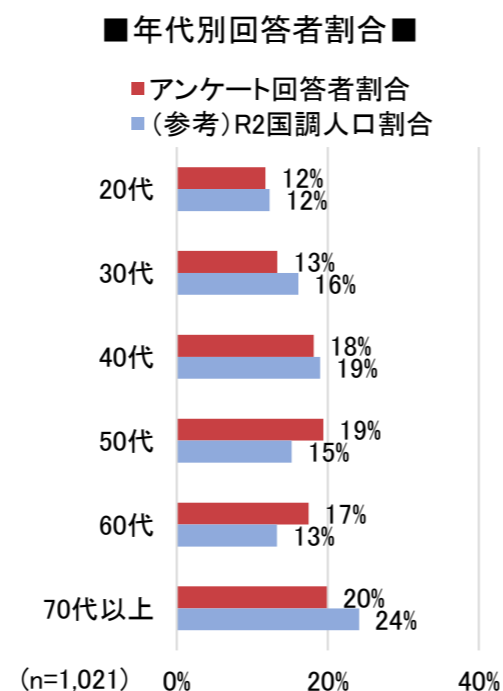
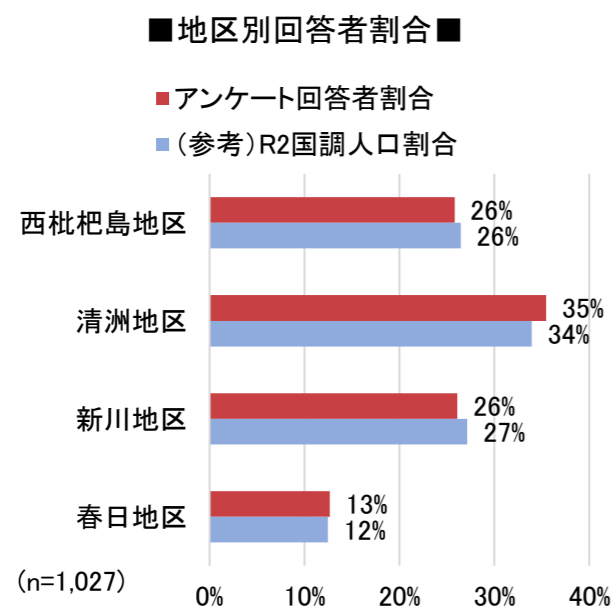
・「清洲地区」が35%と最も多く、次いで「西枇杷島地区」「新川地区」が26%、「春日地区」が13%となっている。

・地区別の回答者割合は、地区別の人口割合（R2国勢調査）と比べ、大きな偏りはないと思われる。

【年代別回答者割合】

・「70代以上」が20%と最も多く、次いで「50代」が19%、「40代」が18%となっている。

・年代別の回答者割合は、年代別の人口割合（R2国勢調査）と比べ、大きな偏りはないと思われる。



令和2年度、令和5年度にも同様の調査を行っており、令和2年度調査結果を踏まえ、令和4年10月1日付であしがるバスのルート・ダイヤを改正した。また、令和5年度調査結果を踏まえ、令和7年3月に第2次清須市地域公共交通計画を策定した。

令和5年度調査：◇調査対象：住民基本台帳から無作為で20歳以上の市民2,000人を抽出
◇調査方法：郵送による配布、郵送回収またはWEB回答（無記名）
◇調査期間：令和5年11月13日（月）～11月27日（月）
◇配布数：2,000通
◇回収数：923通（回収率46.2%）

令和2年度調査：◇調査対象：住民基本台帳から無作為で20歳以上の市民2,000人を抽出
◇調査方法：郵送による配布・回収（無記名）
◇調査期間：令和2年11月16日（月）～12月7日（月）
◇配布数：2,000通
◇回収数：1,151通（回収率57.6%）

<標本誤差について>

○本調査における母集団に対する標本誤差は3.0%であった。

標本誤差が小さいほど、数値の精度はあがることとなり、一般的に標本誤差±5%程度に収められた場合は一定の精度が確保されている結果、標準誤差±10%程度の場合は概ねの傾向を把握できる結果と言われている。

地区名	人口（M） （20歳未満除く）	配布数	回収票数（n）	回収率	誤差率
西枇杷島地区	12,913	529	265	50%	6.0%
新川地区	13,244	544	268	49%	5.9%
清洲地区	16,552	678	364	54%	5.1%
春日地区	6,078	249	130	52%	8.5%
計	48,787	2,000	1,027	51%	3.0%

標本誤差とは…

サンプル（抽出）調査の場合に生じる回答結果の誤差を標本誤差といい、下記の計算式にて算出する。
（信頼率kは一般的な95%※のk=1.96、pは最も標本誤差が高くなるp=0.5として計算している。）

※100回同じ調査を実施した場合、95回は求められた標本誤差内に収まるという意味
例えば、ある政策の賛否を問う質問で賛成の比率が50%であったとき、母集団（市全体）の正しい推定値は、50%±誤差率（上表では3.0%）=47.0～53.0%の範囲に信頼度95%の確率で収まる、と解釈される。

$$(\text{標本誤差}) = k \sqrt{\frac{(M-n)}{(M-1)} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

M: 母集団

n: 有効回答数

k: 信頼率による定数（※） p: 回答比率

※一般的に信頼率95%とすることが多く、その場合、k=1.96となる。

③市民アンケート調査結果の概要

() : 報告書の該当頁を示している。

1) 通勤・通学目的の移動

【主な移動(P15)】

- 通勤・通学においては「名古屋市」や「居住地区内」「居住地区と隣接している地区」への移動が多い。
 主な通勤・通学先：名古屋市、清須市内（清洲・新川）
 市内の通勤・通学先への移動が多い地区：通勤通学先と同じ地区や隣接地区

【駅の乗車人数(P18)】

- 主に JR「清洲駅」「枇杷島駅」、名鉄「新清洲駅」「須ヶ口駅」での乗車が多く、「居住地区内」「居住地区と隣接している地区」にある駅を利用している。
 乗車人数の多い駅：JR「清洲駅」「枇杷島駅」、名鉄「新清洲駅」「須ヶ口駅」
 乗車駅の居住地区内訳：乗車駅と同じ地区や隣接地区

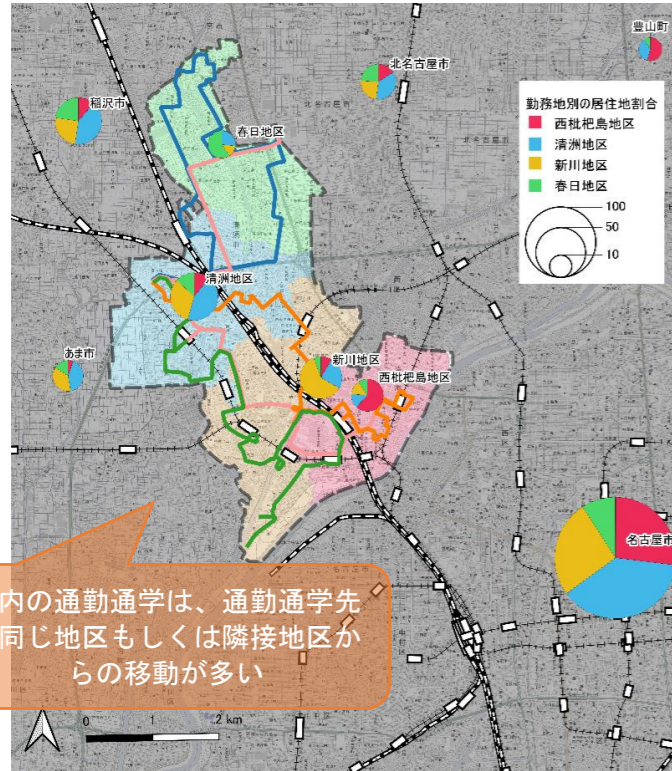
【移動手段(P16)】

- 代表交通手段は、R5 年から大きな違いはみられないものの、公共交通の占める割合が微増した。(33%→35%)
 市内での移動は自動車・バイク利用が 60%、名古屋市への移動は公共交通利用が 62%となっている。
- 移動手段の詳細をみると、自家用車の利用が半数を占め、公共交通は約4割となっている。
 移動手段の詳細：「自家用車（自ら運転）」「徒歩」「自転車」「名鉄線」の順に多い。
 自家用車の利用：53%（自ら運転 49%、家族等による送迎 4%）
 公共交通の利用：38%（鉄道 36%、バス 2%、タクシー 0%）

【公共交通を利用しない理由(P20)】

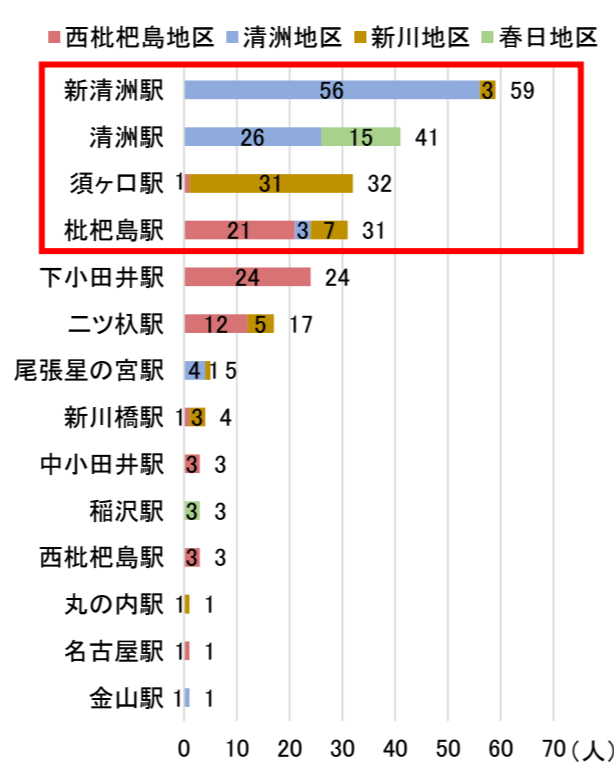
- 主に「目的地に行けない」「移動時間がかかりすぎる」「駅・バス停が近くにない」との理由が多く、改善された場合、約4割が公共交通を利用したいと回答
 公共交通を利用しない理由：「目的地に行けない」「移動時間がかかりすぎる」「駅・バス停が近くにない」
 改善された場合の公共交通の利用意向：利用したい 41%、利用したくない 59%

【通勤・通学先別の居住地割合】

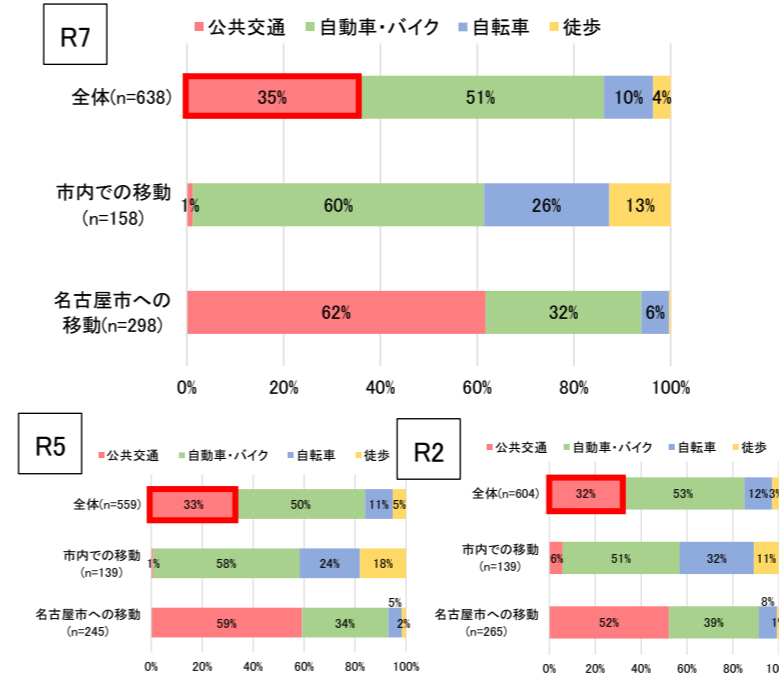


市内の通勤通学は、通勤通学先と同じ地区もしくは隣接地区からの移動が多い

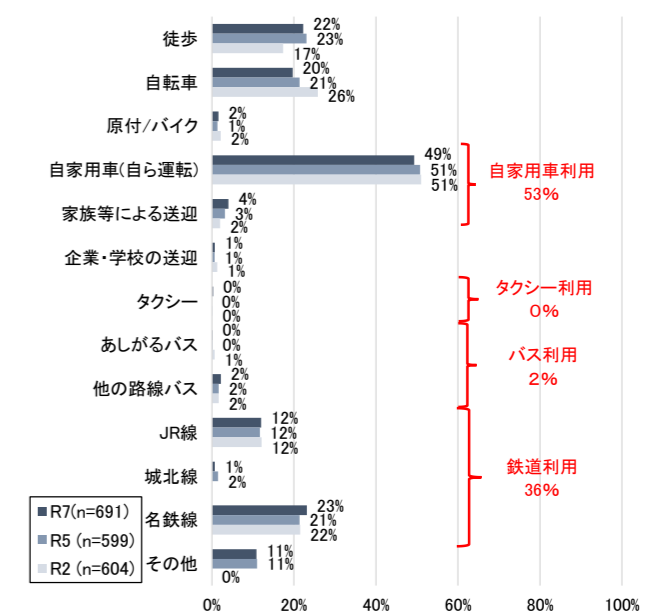
【鉄道駅乗車回答人数（居住地区内訳）】



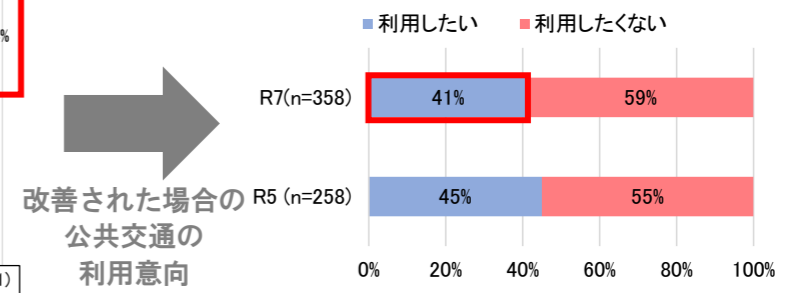
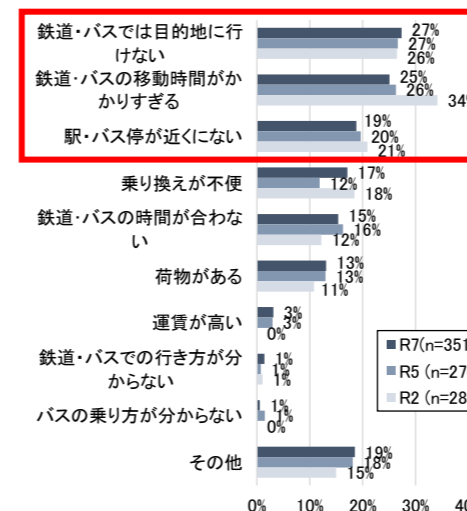
【代表交通手段（通勤時）】



【通勤時の移動手段の詳細】（複数回答）



【公共交通を利用しない理由】（複数回答）



【OD表（居住地⇒勤務地）】

居住地\通勤先	清須市内				県内市外											その他	総計
	西枇杷島地区	清洲地区	新川地区	春日地区	市内不明	名古屋市	稲沢市	名古屋市	名古屋市	あま市	一宮市	その他	岐阜県	三重県			
西枇杷島地区	13	5	3	0	18	80	5	4	1	3	22	3	0	2	159		
清洲地区	3	20	9	4	13	113	18	9	8	8	26	3	1	0	235		
新川地区	3	15	22	2	7	77	11	6	7	1	14	1	1	1	168		
春日地区	2	6	2	9	3	27	10	6	3	3	8	2	0	0	81		
総計	21	46	36	15	41	297	44	25	19	15	70	9	2	3	643		

清須市内計 159

清須市内→全体の 25%
名古屋市→全体の 46%

2) 買物目的の移動

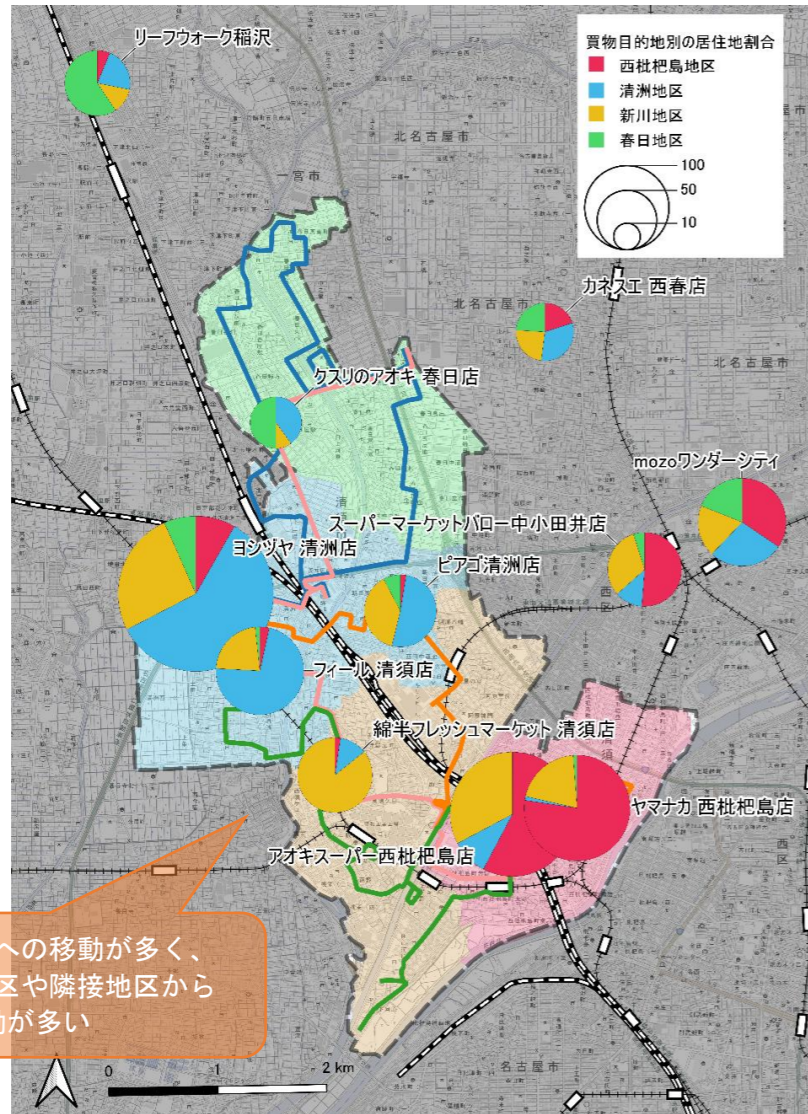
【主な移動(P21)】

● 主な買物先は「ヨシヅヤ 清洲店」「アオキスーパー西枇杷島店」「ヤマナカ西枇フランテ館」であり、買物先と同じ地区もしくは隣接地区からの移動が多い。

主な買物先：「ヨシヅヤ清洲店」「アオキスーパー西枇杷島店」「ヤマナカ西枇フランテ館」

市内の買物先への移動が多い地区：買物先と同じ居住区内もしくは隣接地区

【買物目的地別の居住地割合】



市内の買物施設への移動が多く、買物先と同じ地区や隣接地区からの移動が多い

※総計が20件以上の目的地を示す

【目的地ランキング (買物・回答数20件以上)】

回答	回答数(件)	代表交通手段			
		公共交通	自動車・バイク	自転車	徒歩
ヨシヅヤ 清洲店	181	15	138	21	5
アオキスーパー西枇杷島店	117	6	75	20	16
ヤマナカ 西枇フランテ館	85	8	58	15	4
mozoワンダーシティ	59	9	50	0	0
フィール 清須店	58	3	43	8	4
スーパーマーケットパロー中小田井店	42	1	39	2	0
綿半フレッシュマーケット 清須店	42	4	27	9	2
ピアゴ清洲店	39	0	35	2	2
リーフウォーク稲沢	32	0	30	2	0
カネエ 西春店	25	2	23	0	0
クスリのアオキ 春日店	20	1	14	4	1

※交通手段が未回答のものも含んでいるため、回答数と代表交通手段の合計件数が一致しない

【移動手段(P22)】

● 自家用車の利用が約9割を占め、公共交通の利用は1割と低い。

主な移動手段：「自家用車(自ら運転)」「自転車」「徒歩」

自家用車の利用状況：家族送迎を含む自家用車利用が86%

公共交通の利用状況：「鉄道利用」と「バス利用」と「タクシー利用」の合計が10%

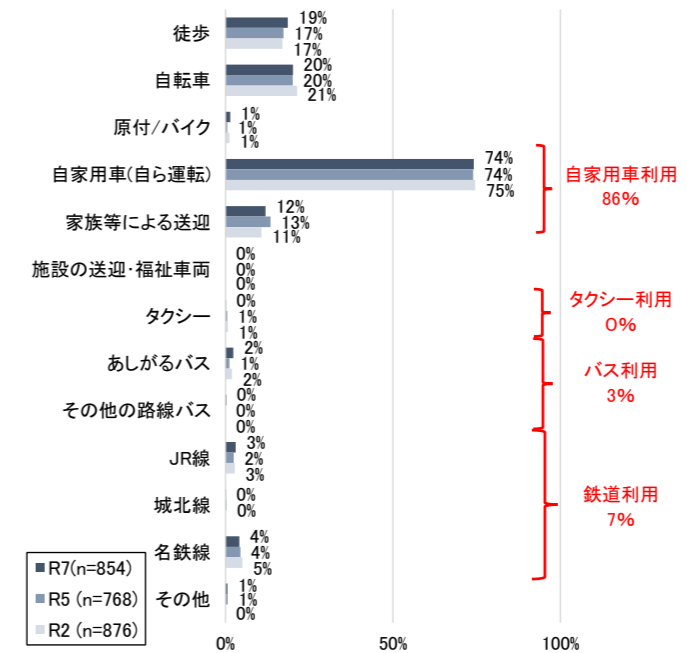
【公共交通を利用しない理由(P24)】

● 主に「荷物がある」「時間がかかりすぎる」「鉄道、バスでは行けない」との理由が多く、これらを改善した場合、約4割が公共交通を利用したいと回答。

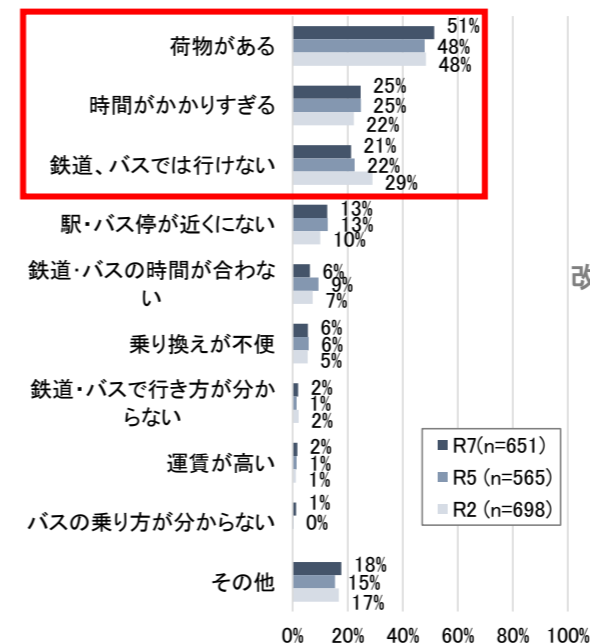
公共交通を利用しない理由：「荷物がある」「時間がかかりすぎる」「鉄道、バスでは行けない」

改善された場合の公共交通の利用意向：利用したい38%、利用したくない62%

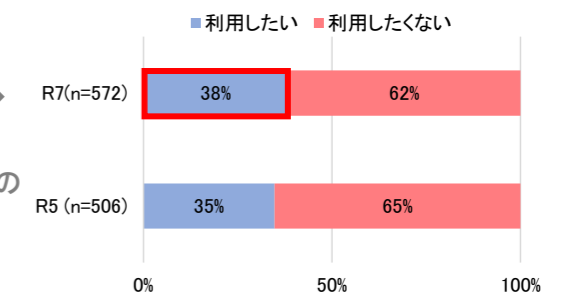
【買物時の移動手段】(複数回答)



【公共交通を利用しない理由】(複数回答)



改善された場合の公共交通へ利用意向



3) 通院目的の移動

【主な移動(P25)】

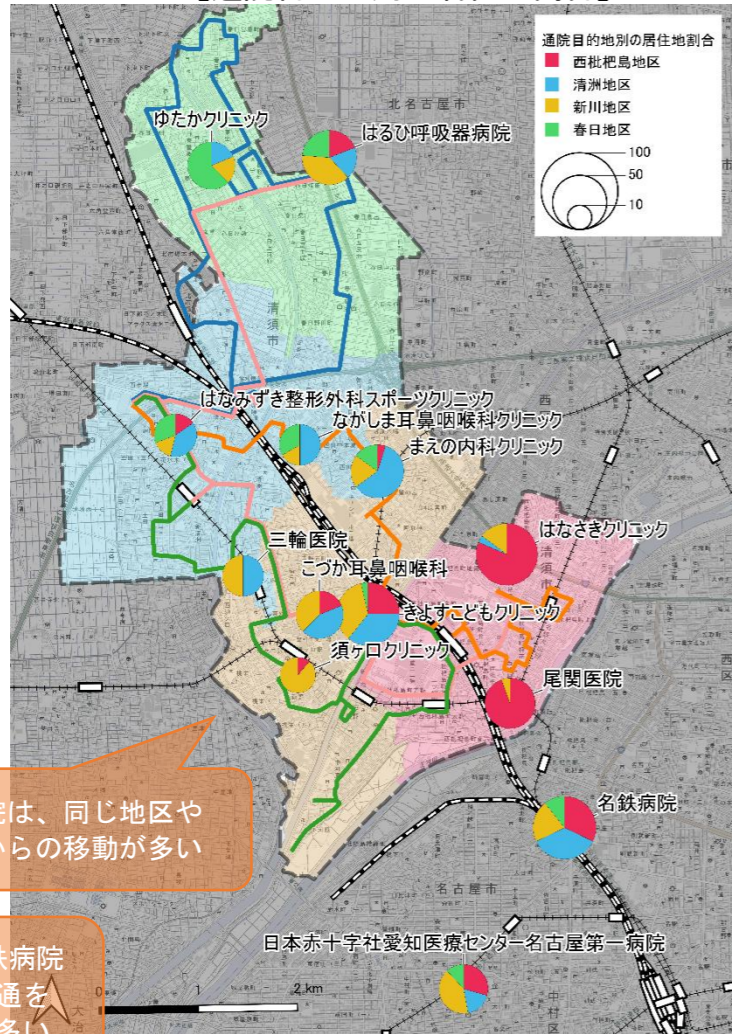
●主な通院先は「きよすこどもクリニック」「名鉄病院」「はなさきクリニック」であり、市外の病院は人口の多い地区からの移動、市内の病院は同じ地区内や隣接地区からの移動が多い。また「名鉄病院」は、特に公共交通を利用した割合が、他の病院と比べて高い。

主な通院先：「きよすこどもクリニック」「名鉄病院」「はなさきクリニック」

市内通院先：通院先と同じ居住地区内もしくは隣接地区からの移動が多い。

市外通院先：公共交通を利用する移動が多い。

【通院目的地別の居住地割合】



市内の病院は、同じ地区や隣接地区からの移動が多い

市外の病院（名鉄病院等）は、公共交通を利用する移動が多い

※総計が10件以上の目的地を示す

【目的地ランキング（通院・回答数10件以上）】

回答	回答数(件)	代表交通手段			
		公共交通	自動車・バイク	自転車	徒歩
きよすこどもクリニック	28	2	21	3	2
名鉄病院	28	18	10	0	0
はなさきクリニック	27	1	23	3	0
はるひ呼吸器病院	21	3	18	0	0
まえの内科クリニック	20	1	16	1	1
尾関医院	18	2	8	5	3
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	17	6	10	1	0
こづか耳鼻咽喉科	16	0	16	0	0
ゆたかクリニック	16	0	15	0	1
はなみずき整形外科スポーツクリニック	13	2	9	0	2
三輪医院	12	0	10	1	1
ながしま耳鼻咽喉科クリニック	12	2	10	0	0
須ヶロクリニック	10	0	6	0	4

※交通手段が未回答のものも含んでいるため、回答数と代表交通手段の合計件数が一致しない

【移動手段(P26)】

●自家用車の利用が約8割を占め、公共交通の利用は約2割となっており、特に名鉄病院への公共交通利用が多い
主な移動手段：「自家用車（自ら運転）」「徒歩」「自転車」「家族等による送迎」

自家用車の利用状況：家族送迎を含む自家用車利用が81%

公共交通の利用状況：鉄道・バス・タクシー利用の合計が19%（名鉄病院への公共交通利用：18件/28件）

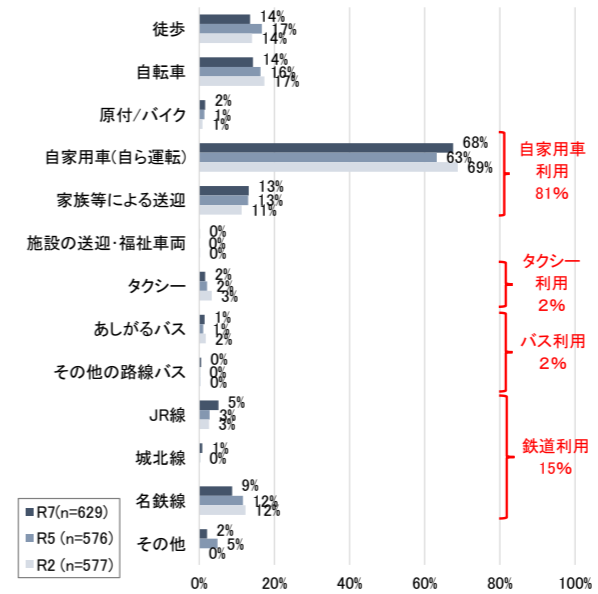
【公共交通を利用しない理由(P28)】

●主に「鉄道、バスでは行けない」「時間がかかりすぎる」「駅・バス停が近くにない」との理由が多く、改善された場合、約5割が公共交通を利用したいと回答

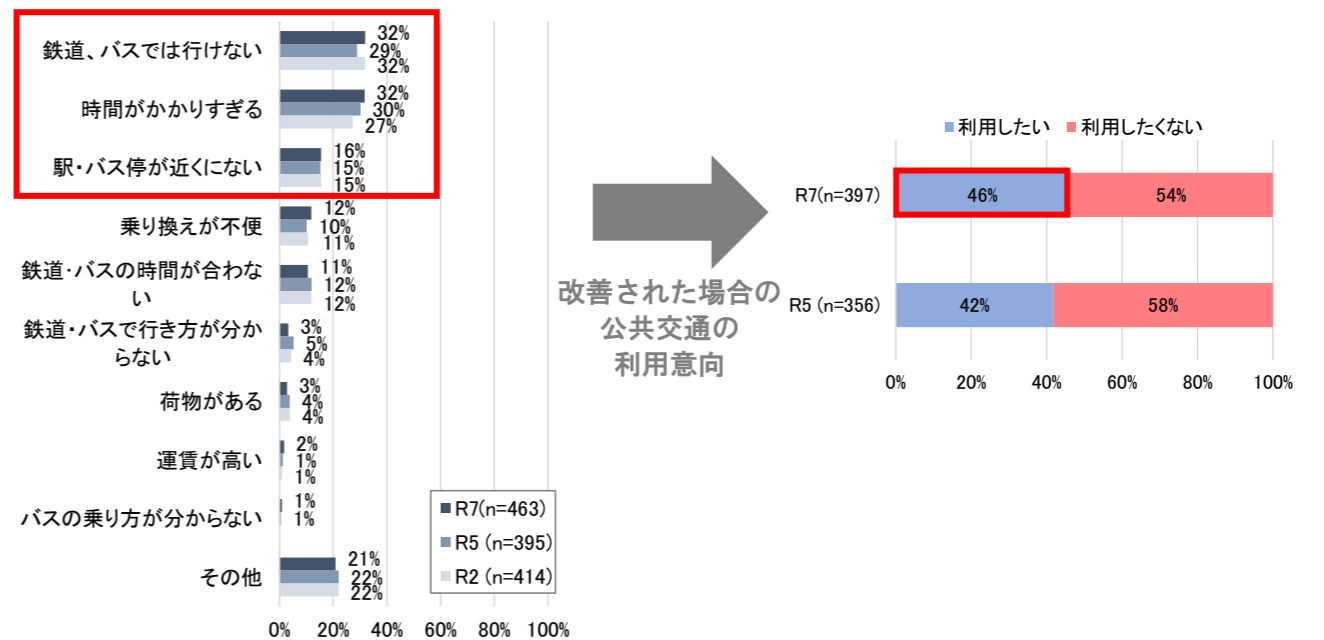
→★ルート改正案として、オレンジルートの「はなさきクリニック」経路が考えられるほか、名鉄駅との乗継利便性の向上も考えられる。

公共交通を利用しない理由：「鉄道、バスでは行けない」「時間がかかりすぎる」「駅・バス停が近くにない」
改善された場合の公共交通の利用意向：利用したい46%、利用したくない54%

【通院時の移動手段】（複数回答）



【公共交通を利用しない理由】（複数回答）



④市内を通る公共交通について

【利用頻度(P33)】

- JR線、名鉄線を月1回以上利用する割合は3~4割程度を占める一方、あしがるバスは1割未満となっている。
- R5年と比較すると、自家用車を月1回以上利用する割合が5ポイント減少している。
月1回以上利用する割合：「JR線」が29%、「城北線」が5%、「名鉄線」が39%、「あしがるバス」が7%、「タクシー」が7%、「自家用車(自ら運転)」が81%

【満足度(P37)】

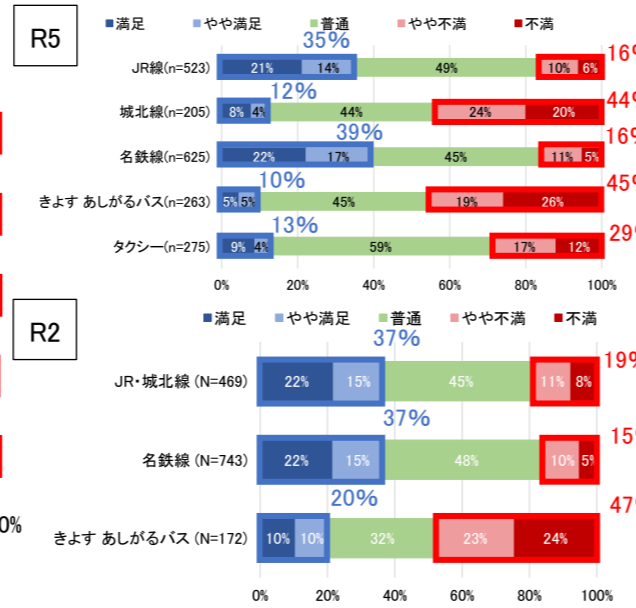
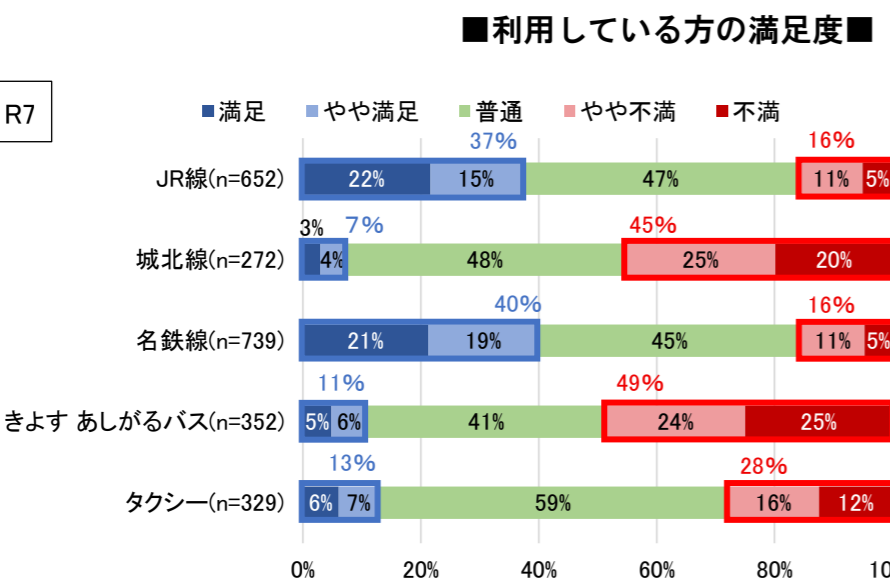
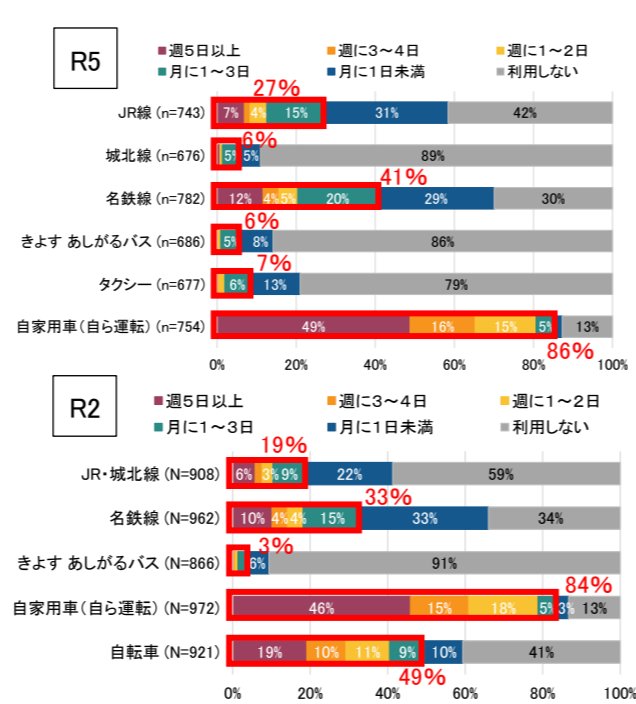
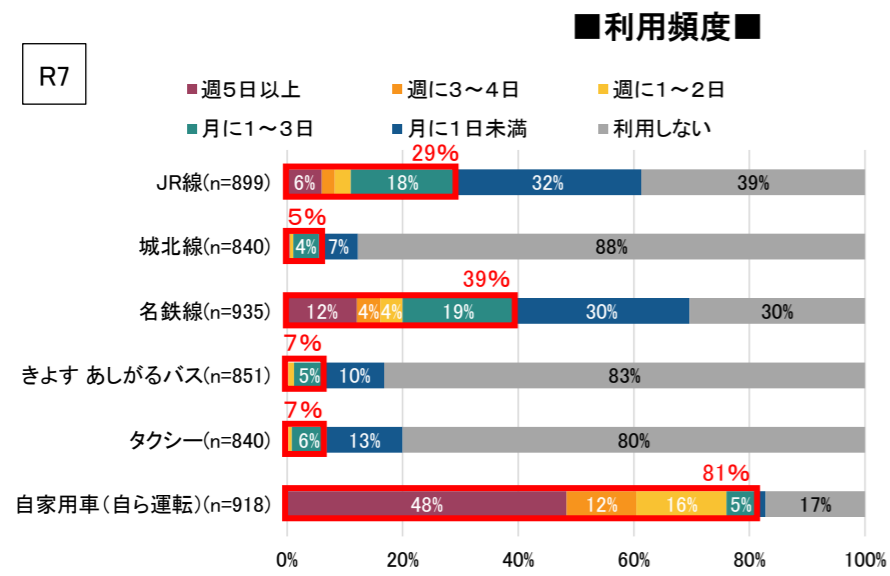
- 「JR線」「名鉄線」の満足度は3~4割、「城北線」「あしがるバス」「タクシー」の満足度は1割程度
- R5年と比較すると、満足度に大きな違いはみられない。
利用者が「満足」と感じる割合(「満足」+「やや満足」の合計)：「JR」が37%、「城北線」が7%、「名鉄線」が40%、「あしがるバス」が11%、「タクシー」が13%
利用者が「不満」と感じる割合(「不満」+「やや不満」の合計)：「JR」が16%、「城北線」が45%、「名鉄線」が16%、「あしがるバス」が49%、「タクシー」が28%

【改善事項(P39)】

- 主に「駅に隣接する駐車場・駐輪場の整備・改良」「利用しやすい時間帯のバスの運行」「目的地へ直接向かうバス路線の設置」「鉄道・バスの乗り継ぎやすさの改善」が多い。
改善すべき事項：「利用しやすい時間帯のバスの運行」「駅に隣接する駐車場・駐輪場の整備・改良」「目的地へ直接向かうバス路線の設置」「鉄道・バスの乗り継ぎやすさの改善」
★「目的地へ直接向かうバス路線の設置」の具体的な目的地として、清洲駅が多く挙げられた。
→ルート改正案として、サクラルート等の清洲駅経由が考えられる。

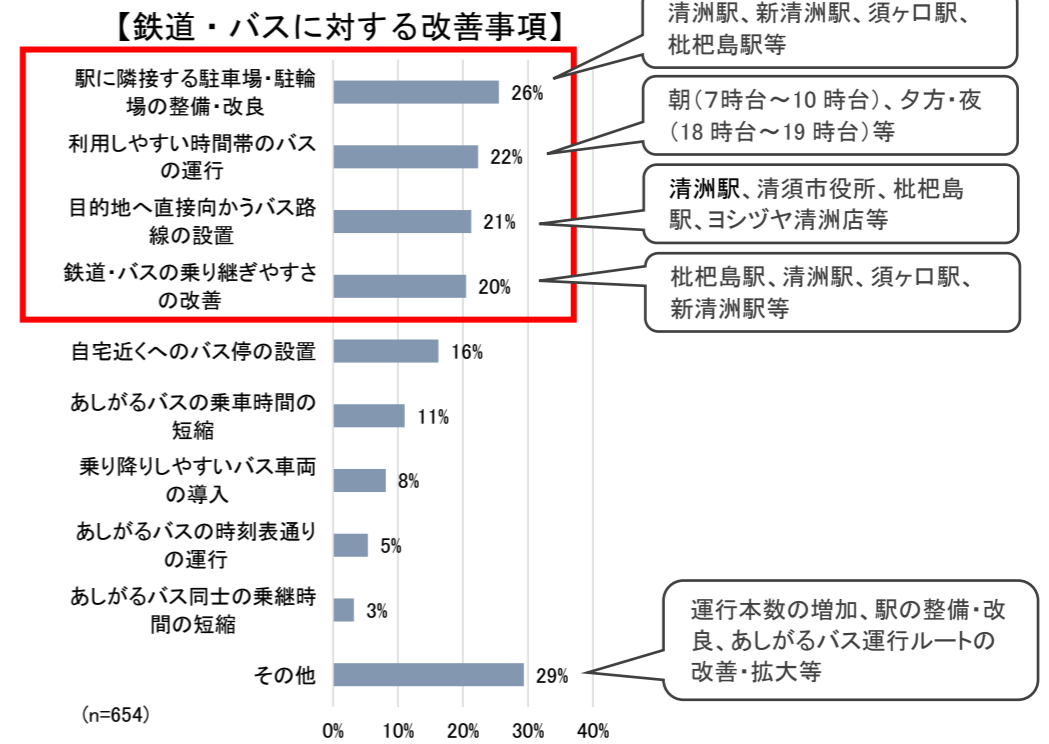
【鉄道との乗継で重視すること(P44)】

- 乗継で重視することとして、主に「待ち時間の短さ(スムーズな乗換ダイヤ)」「運行便数の多さ」が多い。

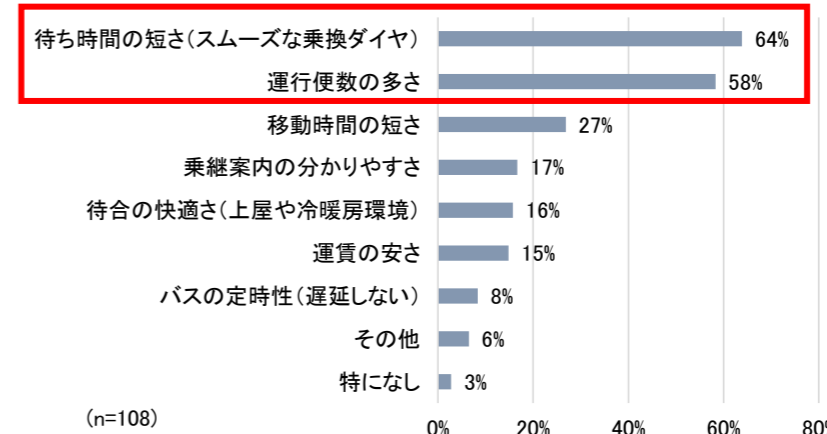


※「使わないのでわからない」の回答を除いて集計

■改善事項■



【鉄道との乗継で重視すること】



⑤公共交通を利用したくなる取組について

【あしがるバス利用促進のための改善点 (P45,46)】

- 「特に見直す点は無く、このままで良い」が46%と最も多く、次いで「経路地を増やす」が16%、「時間帯に応じた、停留所箇所の見直し」が13%
- 経路地として「清洲駅」「ARCO 清洲」「スーパー」「病院」等が挙げられた。
- また、時間帯に応じた、停留所箇所の見直しとして「朝夕の快速便」等が挙げられた。
→★駅、スーパー、公共施設への乗入検討が考えられる。

【公共交通を利用したくなるための取組 (P49,50)】

- 「乗車体験など、子供向けイベントの開催」が25%と最も多く、次いで「ハイブリットや電気自動車など、環境にやさしい車両の導入」が23%、「あしがるバス車両の大型化」「市民参加型のワークショップ(あしがるバスのルート検討の場)の開催」が19%
- 年代別では、30代、40代はそれ以上の年代と比べて、「乗車体験など、子供向けイベントの開催」が多くなっている。また、「高齢者を対象とした、公共交通乗り方教室の開催」は、60代、70代以上で多くなっている。

【公共交通に対する意見・感想(自由回答)(P51)】

- 鉄道について、駅周辺の環境や駅施設の改善等が望まれている。
鉄道に関する主な意見:「駅施設・バリアフリー」「駐車場・駐輪場・駅周辺」「鉄道の本数・ダイヤ」
- あしがるバスについて、運行ルート・運行本数の改善やあしがるバスの維持・充実等が望まれている。
あしがるバスに関する主な意見:「バスの運行ルート」「バスの運行本数」「あしがるバスの維持・充実」

■あしがるバス利用促進のための改善点■

【「経路地を増やす」具体的な施設】

回答	件数(件)
清洲駅	4
ARCO清洲	4
スーパー	4
病院	4
名古屋駅	3
名古屋市	3
ドラッグストア	3
ヨシツヤ 清洲店	3
清須市役所	2
ファミリーマート 清洲御園店	2
業務スーパー 清須店	2
mozoワンダーシティ	2
駅	2
高島公園	2
清洲総合福祉センター	1
平田住宅(バス停)	1
その他の回答	64

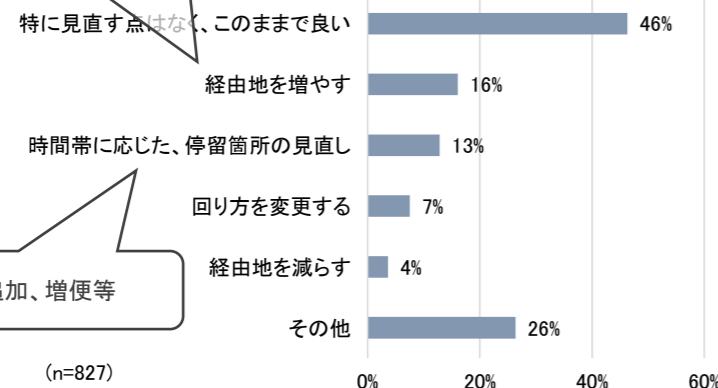
(回答数:104件、回答者数:80人)

【「時間帯に応じた、停留所箇所の見直し」具体的な内容】

回答	件数(件)
朝夕の快速便	13
朝夕の増便	8
増便(時間指定なし)	6
駅までの直行便	5
朝夕のルート変更	3
臨時の停留所	2
利用しないので回答できない	2
夜の増便	2
その他の回答(1件ずつの回答)	18

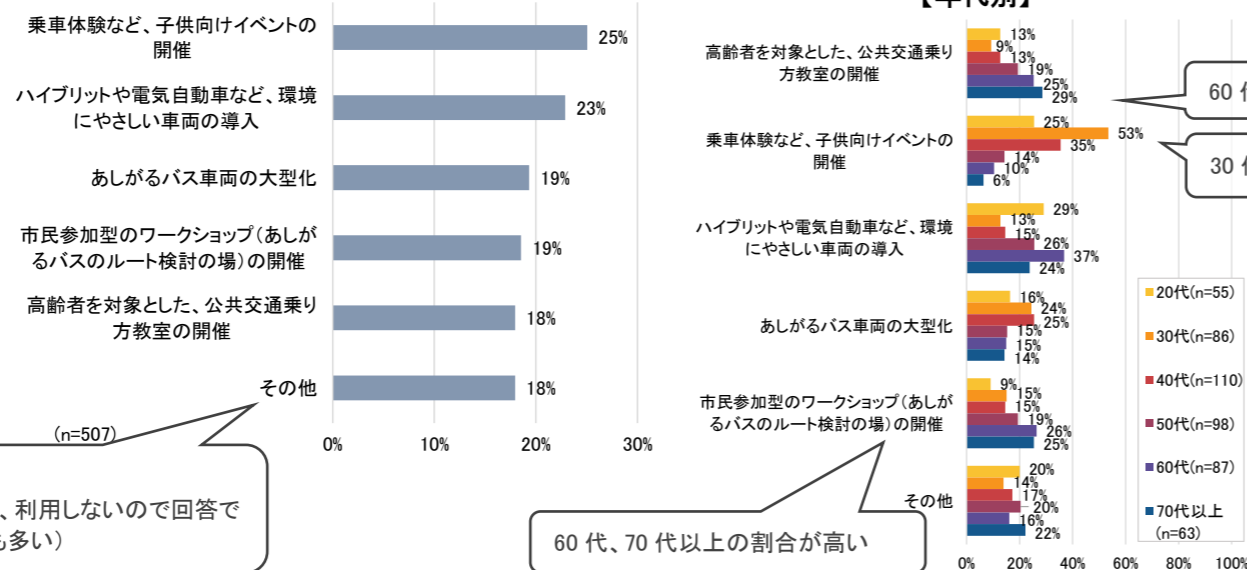
(回答数:59件、回答者数:57人)

「清洲駅」「ARCO 清洲」等



■公共交通を利用したくなるための取組■

【年代別】



■公共交通に対する意見・感想(自由回答)■

回答	回答数(件)
A.鉄道に関する意見	
①駅施設・バリアフリー	29
②鉄道の本数・ダイヤ	17
③駐車場・駐輪場・駅周辺	16
④遅延対策・定時性向上	1
⑤鉄道に関するその他の意見	6
B.あしがるバスに関する意見	
①バスの運行ルート	79
■駅・主要施設	23
■見直し・廃止	14
■自宅付近	13
■商業施設・病院等	10
■市外への乗り入れ	8
■他路線との接続	8
■逆ルート	3
②バスの運行本数	48
■本数の増便	37
■時間帯の見直し	11
③あしがるバスの維持・活用	41
④バスの車両・バリアフリー化	12
⑤お褒め(充実している、満足など)	11
⑥バス停の周辺環境	9
⑦バスの運賃	9
⑧バスの分かりやすさ・情報提供	7
⑨バスの接遇・マナー	7
⑩デマンドタクシーの推進・活用	3
⑪バスの運行コスト	3
⑫バスの利用促進(イベント・キャンペーン等)	3
⑬バスに関するその他の意見	14
C.公共交通全般に関する意見	
①公共交通の維持・充実	18
②公共交通の運賃	7
③バリアフリー化	3
④公共交通の利用促進(イベント・キャンペーン)	1
⑤公共交通に関するその他の意見	17
D.その他の意見	
①あしがるバス以外のバスに関する意見	5
②自転車に関する意見	3
③歩行者に関する意見	1
④特になし	13
⑤その他の意見	26

⑥市民アンケート調査結果のまとめ

1) 目的別移動の特徴

目的	主な移動	移動手段	公共交通を利用しない理由
通勤・通学	・通勤通学においては「名古屋市」や「居住地区内」「居住地区と隣接している地区」への移動が多い。	・自家用車の利用が半数を占め、公共交通の利用は約4割となっている。市内移動は自動車・バイク利用、名古屋市への移動は公共交通利用が多い。 ・鉄道利用について、主にJR「清洲駅」「枇杷島駅」、名鉄「新清洲駅」「須ヶ口駅」での乗車が多く、「居住地区内」「居住地区と隣接している地区」にある駅を利用している。	・主に「目的地に行けない」「移動時間がかかりすぎる」「駅・バス停が近くにない」との理由が多い。 ・改善された場合、約4割の市民が公共交通を利用したいと回答。
買物	・主な買物先は「ヨシヅヤ清洲店」「アオキスーパー西枇杷島店」「ヤマナカ西枇杷ランテ館」であり、買物先と同じ地区もしくは隣接地区からの移動が多い。	・自家用車の利用が約9割を占め、公共交通の利用は約1割と低い。	・主に「荷物がある」「時間がかかりすぎる」「鉄道、バスでは行けない」との理由が多い。 ・改善された場合、約4割の市民が公共交通を利用したいと回答。
通院	・主な通院先は「きよすこどもクリニック」「名鉄病院」「はなさきクリニック」であり、市内の病院は同じ地区内や隣接地区からの移動が多い。また市外の病院は、公共交通を利用する移動が多い。	・自家用車の利用が8割を占め、公共交通の利用は約2割となっている。 ・名古屋市への移動は、公共交通利用が多い。	・主に「鉄道、バスでは行けない」「時間がかかりすぎる」「駅・バス停が近くにない」との理由が多い。 ・改善された場合、約5割が公共交通を利用したいと回答。

2) 公共交通モード別の特徴

モード	利用頻度・満足度及び主なニーズ・改善点					各公共交通の課題(総括)
	月1回以上利用する割合		満足度		主なニーズ・改善点	
	R7	R5	R7	R5		
鉄道	JR線	29%	27%	満足37% 不満16%	満足35% 不満16%	<ul style="list-style-type: none"> ・JR線や名鉄線を月1回以上利用する割合は回答者の3～4割程度で、R5年から大きな変化はない。 ・駅の駐車場・駐輪場整備をはじめ、駅施設の整備・改良等が求められている。
	城北線	5%	6%	満足7% 不満45%	満足12% 不満44%	
	名鉄線	39%	41%	満足40% 不満16%	満足39% 不満16%	
あしがるバス	7%	6%	満足11% 不満49%	満足10% 不満45%	<ul style="list-style-type: none"> ・利用しやすい時間帯のバスの運行(朝、夕方等) ・運行ルートの改善・拡大 ・鉄道・バスの乗り継ぎやすさの改善(待ち時間の短さ等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・あしがるバスを月1回以上利用する割合は7%となっている。 ・利用しやすい時間帯のバスの運行や目的地へ直接向かうバス路線の設置、鉄道・バスの乗り継ぎやすさの改善等が求められている。
タクシー	7%	7%	満足13% 不満28%	満足13% 不満29%	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、子育て世代の利用割引 	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシーを月1回以上利用する割合は7%となっている。 ・高齢者、子育て世代の利用割引等が求められている。

3) 公共交通を利用したくなる取組等

あしがるバス利用促進のための改善点	公共交通を利用したくなるための取組	公共交通全般に対する主な意見概要
<ul style="list-style-type: none"> ・それ以外では、「経路地を増やす」「時間帯に応じた、停留所箇所の見直し」が多くなっている。 ・「経路地を増やす」では、「清洲駅」や「ARCO 清洲」、「スーパー」、「病院」が、「時間帯に応じた、停留所箇所の見直し」では「朝夕の快速便」が多く挙げられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「乗車体験等、子供向けのイベント開催」が最も多く、特に30代、40代が多い。 ・そのほか、「ハイブリットや電気自動車など、環境にやさしい車両の導入」「あしがるバス車両の大型化」等、車両に関する回答が多く挙げられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道については、バリアフリー等、駅施設の改善や運行本数の見直し等が、あしがるバスについては、運行ルート・運行本数の改善等が望まれている。 ・また、公共交通全般の維持・充実に関する意見・要望も複数件寄せられた。